

GLOBAL
CROSSVALUE
PLATFORM

株主レポート

まるべに

2020 WINTER No.129

CONTENTS

- 01 社長メッセージ
- 02 財務ハイライト
- 03 グループニュース
- 04 ビジネスプランコンテスト
- 05 それぞれの場所で、できることを

コラム 正新和 2020年9月、「統合報告書2020」を発行しました
世界の街から(南アフリカ共和国・ケープタウン)

Marubeni



2030年に向けた長期的な企業価値向上を追求する

株主の皆様には、平素より格別のご支援およびご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。11月4日に2020年度第2四半期連結決算を公表しました。第2四半期累計期間の純利益は1,017億円となり、期初に掲げた2020年度の純利益見通し1,000億円を前倒しで達成することが出来ました。また、この結果を受けて、通期の純利益見通しを1,500億円に上方修正し、年間配当金についても期初に公表した1株当たり15円から7円増配の1株当たり22円としました。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴って経営環境が不透明となる一方で、あらゆる分野でデジタル化の進展が後押しされるなど、変化の早さは一段と加速しています。昨年度の社長就任時から社員に向けて「チャレンジ」・「スピード」・「現場主義」という当社の強みにもつながる3つのキーワードを繰り返し発信しています。様々な課題が山積するコロナ禍において、これらはますます重要になります。世界各国のグループ社員や顧客、パートナーの安全確保を第一に掲げつつ、我々のビジネスが置かれている状況や周囲をよく見渡しなが、小さな変化を見逃さずに一歩でも半歩でも早く動き、あらゆる課題の解決に挑み続けます。

世界は忍耐の期間にありますが、何事も終わりのない出来事はありません。ポストコロナの将来を見据え、そして2030年に向けた長期的な企業価値向上の実現のため、今出来ることに全力で取り組み、結果につなげることで株主の皆様の期待に応えて参ります。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

代表取締役社長

柿木真澄



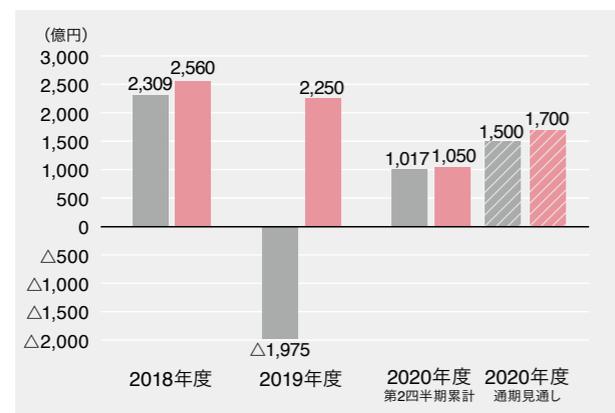
FINANCIAL HIGHLIGHT 財務ハイライト

2020年度第2四半期累計期間の純利益は、1,017億円(前年同期比-101億円の減益)となりました。2020年度通期の純利益見通しは、期初に掲げた1,000億円から1,500億円に上方修正しました。これに伴い、年間配当金についても期初予想の1株当たり15円から1株当たり22円に上方修正し、これを下限とします。中間配当金は1株当たり11円で決議済みであり、12月1日より支払いを開始します。

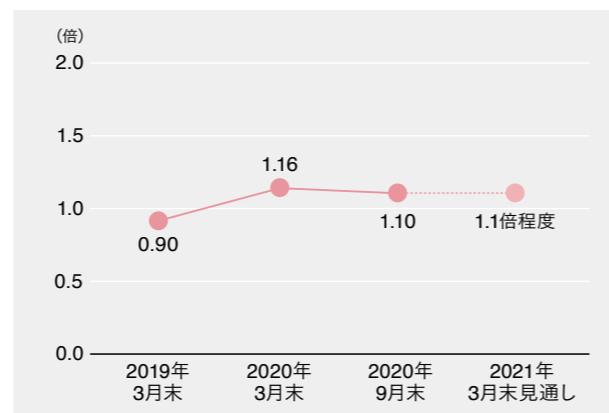
更に詳しい情報は当社ウェブサイトをご覧ください。
<https://www.marubeni.com/jp/ir/finance/>



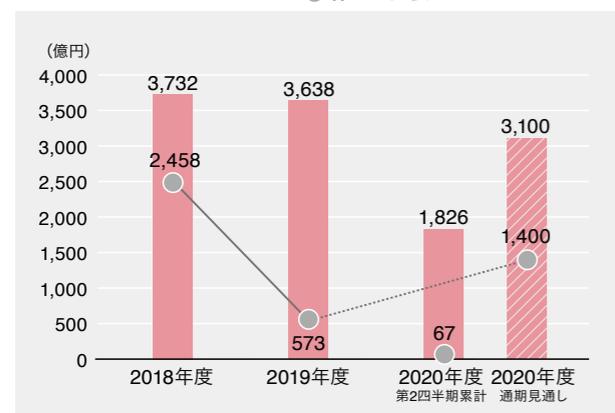
純利益・実態純利益



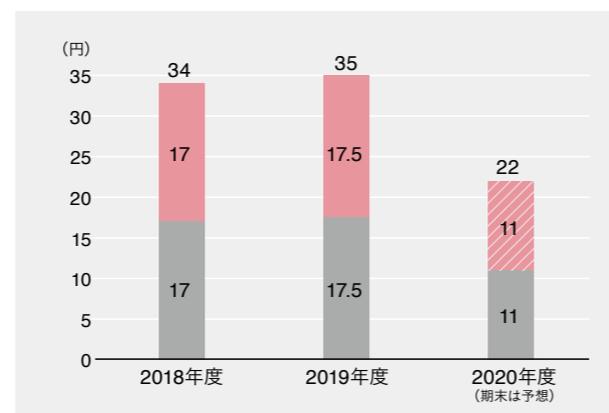
ネット DE レシオ



キャッシュ・フロー



1株当たり配当金



※純利益：親会社の所有者に帰属する当期利益 ※実態純利益：純利益から一過性要因を控除した概数を表記
 ※2020年度通期見通し/2021年3月末見通し：2020年11月4日に公表した通期見通し ※基礎営業キャッシュ・フロー：営業キャッシュ・フローから営業資金の増減等を控除
 ※当社業績予想における新型コロナウイルス感染症についての前提：新型コロナウイルス感染症が当社事業に与える影響はビジネス領域や国・地域によって異なりますが、新型コロナウイルス感染症の収束時期等の先行きは引き続き不透明であり、当社を取り巻く事業環境については、2020年度の上半期中に急激な落ち込みから回復に転じたものの、下半期においても緩やかな回復に留まり、2021年度まで新型コロナウイルス感染症の影響が残ることを想定しております。

セグメント別純利益

(億円)	2019年度 第2四半期累計	2020年度 第2四半期累計	増減	主な増減内容
ライフスタイル	18	7	-11	新型コロナウイルスの影響に伴う衣料品等の販売減少
情報・不動産	71	89	+19	国内不動産販売の増加
フォレストプロダクツ	40	△6	-46	市況悪化等に伴うムシバルブ事業の減益、チップの販売数量減少 海外における貸倒費用の増加
食料	116	173	+58	肉牛処理加工・販売事業の増益、スーパーマーケット事業の増益 前年同期に計上した国内小売事業における関係会社株式売却益の反動
アグリ事業	100	167	+67	前年同期に計上したGavilonの過年度決算修正の反動 米国穀物輸出事業の増益、金利収支の改善
化学品	14	87	+73	石油化学製品取引の採算改善による増益
エネルギー	△6	35	+41	前年同期に計上した米国メキシコ湾石油・ガス開発事業における減損損失の反動
金属	386	185	-201	豪州石炭事業、鉄鋼製品事業及びチリ銅事業の減益
電力	141	121	-20	電力小売事業等の減益
インフラプロジェクト	15	63	+49	前年同期に計上した海外インフラ案件の損失の反動等
航空・船舶	78	29	-49	新型コロナウイルスの影響に伴う航空機部品及びエンジンの販売低迷並びに船舶運航収入の減少
金融・リース事業	105	66	-39	新型コロナウイルスの影響に伴う米国航空機リース事業の減益
建機・産機・モビリティ	117	62	-54	新型コロナウイルスの影響に伴う建設機械、産業設備及びタイヤ・ゴム資材関連事業の減益
次世代事業開発	△5	△10	-5	
その他	△70	△52	+19	
全社合計	1,118	1,017	-101	

※2020年4月よりオペレーティング・セグメントの「プラント」を「インフラプロジェクト」に、「建機・自動車・産機」を「建機・産機・モビリティ」にそれぞれ名称変更するとともに、「プラント」の一部を「金融・リース事業」に、「プラント」と「その他」の一部を「次世代事業開発」に、「次世代事業開発」の一部を「その他」に編入しております。これらの変更に伴い、前年同期のオペレーティング・セグメント情報を組み替えて表示しております。

Group News グループニュース

グローバルに広がる、丸紅グループの最新トピックやプロジェクトを幅広くご紹介します。

更に詳しい情報は当社ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.marubeni.com/jp/news/>



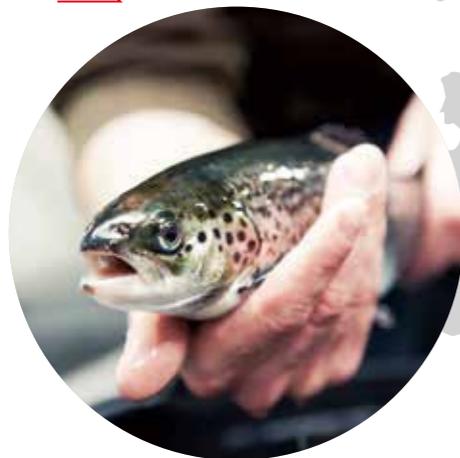
デンマーク

食料

2020.4.16 リリース

デンマークにおけるサーモンの閉鎖循環式陸上養殖事業への参画

[P.8](#)



ミャンマー

電力

2020.7.27 リリース

ティラワLNG To Powerプロジェクトの独占開発権取得

インドネシア

建機・産機・モビリティ

2020.7.28 リリース

タイヤ小売チェーンの経営権取得



日本

化学品

2020.7.27 リリース

医療機関向けAI診断支援サービスを目的とした事業会社を設立

フォレストプロダクツ

2020.7.30 リリース

“循環型食器”『edish』の実証実験を開始 [P.9-10](#)

エネルギー

2020.8.17 リリース

福島県浪江町における水素サプライチェーンの構築に係るFS調査を開始

電力

2020.8.27 リリース

鳥取県営水力発電所再整備・運営等事業の開始

情報・不動産

2020.8.27 リリース

東京駅至近の大手町地区常磐橋再開発エリアでのデータセンター開設に着手



運営事業を行う春米発電所

メキシコ

インフラプロジェクト

2020.9.3 リリース

道路PPP事業への出資



米国

金属

2020.7.15 リリース

米国EyeLock社製「虹彩認証デバイス」に関する国内販売代理店契約の締結について

航空・船舶

2020.5.15 リリース

小型衛星用スラスタを開発・製造するPhase Four社との資本提携及び代理店契約締結



ブラジル

フォレストプロダクツ

2020.6.30 リリース

ブラジル衛生用品メーカー Santher 社の株式取得

[P.7](#)

チリ

金属

2020.4.3 リリース

センチネラ銅鉱山の操業にかかる電源の転換について
～ 2022年より100%再生可能エネルギーを使用～

フィリピン

次世代事業開発

2020.5.15 リリース

新型コロナウイルス感染症検査開始

[P.11](#)

ブラジル衛生用品メーカー Santher 社の株式取得完了に関するお知らせ

2020.6.30リリース

衛生的な環境と安心・快適な生活の実現に寄与していく

丸紅は、ブラジルの衛生用品メーカー Santher - Fábrica de Papel Santa Therezinha S.A. 社（以下、「Santher 社」）の全株式を大王製紙（株）と共同で取得しました。

Santher 社は、ブラジルにおいて衛生用紙及びペーパー用おむつや生理用ナプキン等の H&PC[※]商品の製造・販売を行っており、創業 80 年以上の歴史があります。同社商品のブラジル全土におけるブランド認知度は非常に高く、同社は H&PC 市場のリーダーとして確固たる地位を築いており、また、生産体制の効率化・高付加価値化による更な

る収益力強化の可能性を十分に有しています。世界の H&PC 市場は約 1,850 億米ドル（2019 年）の規模を有し、今後も新興国での人口増加、生活水準向上に伴う普及率上昇、先進国での高齢化進行による大人用紙おむつの需要拡大等を背景に年率 3% 前後の成長が見込まれています。丸紅は、衛生用紙及び紙おむつや生理用ナプキン等の H&PC 製品の海外展開を新たな成長機会と捉え、H&PC 事業を通じて世界中の人々に高品質な商品を提供し、衛生的な環境と安心・快適な生活の実現に寄与していく考えで、本買収をその第一歩と位置付けています。将来的にはブラジルのみならず、南米全域、更にはアフリカまで見据えた H&PC 事業の展開を推進していきます。

多様化する消費者ニーズを取り込む

丸紅は、H&PC 製品の販売を通じて消費者との接点を構築し、丸紅が有する総合商社としての機能・リソース・ネットワークを掛け合わせることで、多様化する消費者ニーズに沿った商品・サービスを提供するプラットフォームを確立し、特に新興国において台頭する中間消費者層の需要を取り込むことを目指しています。

※ホーム&パーソナルケアの略。衛生用品等。

デンマークにおけるサーモンの閉鎖循環式陸上養殖事業への参画について

2020.4.16リリース

サーモンの閉鎖循環式陸上養殖事業におけるトッププレイヤーを子会社化

丸紅は、日本水産（株）と共同でデンマークの Danish Salmon A/S（以下、「DS 社」）の株式 66.7% を 2020 年 4 月 15 日付で取得し、子会社とすることで欧州におけるサーモンの閉鎖循環式陸上養殖（以下、「RAS[※]」）事業に参入しました。

新興国を中心とした食生活の質向上や、先進国におけるヘルシー志向の高まりにより、世界の水産物需要は年々拡大しています。一方で、天然漁獲量はこの 30 年間ほぼ横ばいで推移しており、養殖水産物が需要の拡大を支えています。中でもサーモンは海面養殖に適した沿岸地域に限られており、養殖地域に地理的制限を受けない RAS の拡大が特に期待されています。RAS は水質汚染や養殖魚の流出といった、周辺環境や生態系への影響が小さい養殖手法であり、将来的な人口増加に伴うタンパク質の供給不足解消の有効手段としても有望視されています。



PICK UP

DS 社は、サーモン RAS 事業において世界トップレベルの生産実績を有しており、同事業分野での製造ノウハウ・技術を確立した数少ない企業の 1 社です。丸紅は、世界各地で養殖事業の豊富な実績を有している日本水産（株）と共同で欧州におけるサーモン RAS 事業を拡大するとともに、DS 社の製造ノウハウ・技術を活用して、欧州域外での RAS 事業展開も視野に入れていきます。

環境に配慮した形で将来的なタンパク質需要に応える

丸紅は、本件を通じて拡大する世界の水産物需要に応えるのみならず、環境に配慮した水産物を安定供給し、将来的な人口増加に伴うタンパク質の需要にも応えることで社会課題の解決に貢献していきます。

※Recirculated Aquaculture Systemの略。



PICK UP

04 Business Plan Contest ビジネスプランコンテスト

前号では、2018年度から導入・運用開始している“既存の枠組みを超える、「人財」×「仕掛け」×「時間」の施策”のうち、「仕掛け」にあたるビジネスプランコンテスト(以下、ビジコン)の内容とビジコン2018から事業化に至ったインドネシアにおけるデジタル母子健康手帳サービス「Diary Bunda(ダイアリーブندا)」について紹介しました。本号では、ビジコン2019で事業化挑戦権を獲得した案件が実証実験を実施しましたのでご紹介します。

レポートNo.128
2020年夏号



実証実験実施案件紹介

“循環型食器”『edish』の実証実験を実施 ～使用後は飼料や肥料に、誰でも簡単に参加できる“食器のアップサイクル”～

食品廃材を原料とし、環境に負荷をかけない“循環型食器”『edish(エディッシュ)』の実証実験を実施しました。『edish』のアップサイクル※では、これまでほとんど用途がなかった食物の皮や芯などの食品廃材を、独自の技術で食器に成型し、飲食店へと提供。使用後は、食器を回収し、工場にて粉碎・乾燥。その後、飼料や肥料などへ加工し、畜産事業者や肥料事業者に提供することを目指します。

『edish』が目指すビジョン

循環型社会の実現を目指す『edish』は、以下3つの特徴を掲げています。

① ecological (エコロジカル)

生分解が早く自然環境と調和

② ethical (エシカル)

企業価値イメージの向上に寄与するブランドへ

③ economical (エコノミカル)

紙やプラスチックより安価な食品廃材の活用

『edish』の導入によって生まれるメリット

・いつでも衛生的で、安全・安心なサービスを実現

洗って何度も使う陶器の皿と異なり、1回使ったら回収して粉碎する『edish』は、洗い残しなどによる衛生面での心配がありません。

・テイクアウト容器を通じた、お客様への訴求

従来の紙やプラスチックを原料とするテイクアウト容器では難しかった他店舗との差別化や、『edish』の“使って回収する”というアクションも提供することで、テイクアウトを通じてお客様に環境問題を考えるきっかけをつくりだすなど、新たなブランド訴求が可能になります。

実証実験として葛西臨海公園のCRYSTAL CAFEやバーベキュー広場での試験導入、シリコンバレー発・体験型店舗の「b8ta Tokyo - Shinjuku Marui」での展示・販売、『edish』の公式サイトでの一般向けサンプル品販売を実施し、飲食店やお客様からのフィードバックによる細かなサービス改善を重ねながらユーザーの検証および循環サイクルの検証を行いました。今後は、実証実験の結果を踏まえて事業性の有無を検討する予定です。

※アップサイクル：素材の原料化・再利用(リサイクル)ではなく、不要になった物の特性などを活かして、新たな付加価値の創出・アップグレードにつなげることを目的とする概念。



みかんの皮から生まれた『edish』



使用済み茶葉から生まれた『edish』

発案者に聞いてみた!

1. ビジコン応募を通して気づきや発見などありましたか?
2. ビジコンという制度をどう思いますか?
3. 『edish』は世の中をどのように変える可能性があると考えていますか?

1. 仕事をしている中で沸いてくる、“こうすればいいのに”というアイデアを現実的な事業として考えることが出来ました。普段と違う発想・ルートでアイデアを具現化する楽しさも発見できました。
2. 素晴らしいの一言。いつもの仕事から離れた発想もビジコンが可能性をすくってくれる。こうした制度は新しい視点でビジネスを組み立てるのに一役買っていると思います。
3. いま世間では脱プラスチックが叫ばれています。日本では焼却施設がありますが、海外では焼却施設がないために埋めたり山の中に積んだりしている地域も多く、エコとは程遠い現実があります。『edish』によってアップサイクルを実現できれば、地球の未来にとって必ずプラスになるはずです。

築瀬 啓太

2005年入社。フォレストプロダクツ本部にてセルロースナノファイバーの開発を担当する傍らビジコン2019に応募。



Doing what we can, where we are

それぞれの場所で、できることを

世界中が大きな影響を受けている新型コロナウイルス感染症の拡大。その中で、自分たちにできることは何か。困難な状況下でも操業を続け、人々の生活を支えること。地域や取引先、身近な存在に寄り添うこと。丸紅グループがそれぞれの場所で行った活動の一部をご紹介します。

フィリピン共和国において新型コロナウイルス感染症検査を開始

フィリピンにおいても新型コロナウイルスの深刻な感染拡大が続く中、丸紅はLSIメディエンス社、Metro Pacific社と共同設立した検体検査会社Medi Linxを通じ、Makati Medical Center内に最大720件/日の新型コロナ検査(PCR)を実施できる体制を構築しました。同検査への取組により、フィリピンの感染症対策への支援を続けていきます。



タイ

B-Quik Co., Ltd

病院での献血血液の在庫不足から、本社にて従業員・周辺住民参加の献血活動を実施。109名参加。



米国

Creekstone Farms Premium Beef LLC

牛ひき肉などを地域の慈善団体に寄付。



アンゴラ

丸紅エネルギーインフラプロジェクト部/ 丸紅ルアンダ出張所

丸紅が建設したAfrica Textil繊維工場向けに布マスク製造に必要な機材部品・原材料を寄付。



ブラジル

Terlogs Terminal Maritimo Ltda.

地元市民病院に人口呼吸器を寄贈。



PT. TEL (インドネシア)



PT. Supreme Energy Rantau Dedap (インドネシア)



PT. Jawa Satu Power (インドネシア)



PT. Megalopolis Manunggal Industrial Development (インドネシア)



TeaM Energy Corporation (フィリピン)



Maynilad Water Services Inc. (フィリピン)



PLM Fleet (米国)



丸紅米国会社 (米国)



Codaca Holding & Investment Co., Ltd (グアテマラ)



木曾岬メガソーラー (日本)



興亜工業 (日本)

丸紅グループの統合報告書はステークホルダーとのコミュニケーションを図り、広く社会の信頼を得ることを目的としています。丸紅グループの取り組みをより体系的にご理解いただくために、在り姿とその実現に向けた戦略、ビジネスを通じた社会的課題の解決について統合報告書としてまとめています。「統合報告書2020」では、CEOメッセージや社外取締役鼎談において、当社経営陣の直接的なメッセージをお伝えするとともに、TCFD[※]提言に基づく情報開示の開始や、丸紅グループのマテリアリティに関連する取り組み方針についての対応・進捗状況の開示など、非財務情報の開示を拡充しています。ぜひご一読いただき、改めて丸紅グループ全体の取り組みについて理解を深めていただく機会となれば幸いです。

※TCFD：金融安定理事会（FSB：Financial Stability Board）によって設立された気候関連財務情報開示タスクフォース（Task Force on Climate-related Financial Disclosures）。



表紙

CEOメッセージ

社外取締役鼎談



統合報告書 2020

https://www.marubeni.com/jp/ir/reports/integrated_report/

TCFD 提言に基づく情報開示

丸紅グループは、気候関連財務情報開示の重要性を認識し、2019年2月にTCFD提言に賛同の意を表明するとともに、気候変動がもたらす「機会」および「リスク」の把握、情報開示の拡充に取り組んでいます。

2020年9月8日に「丸紅グループの購入電力のCO₂フリー化推進ならびに温室効果ガス排出削減目標について」を公表しました。TCFD提言に基づく情報開示を通じて、今後目標に対する進捗を定期的に開示していきます。

<https://www.marubeni.com/jp/news/2020/release/00020.html>



世界の街から

 南アフリカ共和国・ケープタウン

丸紅(株) サブサハラデスク
高杉 哲

南アフリカで最も美しい街 ケープタウン

南アフリカといえば、皆さん何を想像されますか？最近の話題といえば、ラグビーワールドカップの南アフリカ優勝ではないでしょうか。今回は、そんな南アフリカで最も美しい街と言われる、ケープタウンの魅力についてご紹介します。

ケープタウンは南アフリカ発祥の地として知られる港町。バルトロメウ・ディアスが1488年に喜望峰を発見したのち、南アフリカに白人が最初に入植した場所です。市内で最も有名な観光地の一つに、テーブルマウンテンがあります。標高1,087m、山頂が平らなためこう呼ば

れています。ロープウェイを使って頂上まで行くと、ケープタウンの街並みを一望することができます。ケープタウンから車で南に1.5時間で、喜望峰に到着します。ここはインド洋と大西洋が交差する岬



筆者・アフリカ大陸最「南西」端にて



喜望峰の灯台から眺める大海原

で、アフリカ大陸最「南西」端です。よく最南端と間違われますが、最南端はさらに南東へ150km離れたアグラス岬なので、お間違えなく。周辺にはかつての船乗りの為に作られた灯台が佇んでおり、そこからは地球が丸いことを実感するほどの大海原を一望することができます。

喜望峰から東へ走ること1.5時間、南アフリカ随一のワイン産地であるステレンボッシュへ到着します。実はケープタウン周辺は、イタリアやスペインと同じ地中海性気候のためジューシーな葡萄が良く育ち、高品質なワインが作られています。一帯のワイナリーでは、様々なワインのテイastingがお手頃価格で楽しめます。ブドウ園を囲む美しい景色も期待を裏切りません。



ステレンボッシュのワイナリー

「かわいい」を、シェアする

女の子が夢中になる色やモチーフを使ったスニーカーは、ママはあんまり買いたくないものだったりしませんか？
靴は毎日履くもので、お洋服みたいにたくさんは買えないから、ふたりが納得したデザインで、お洋服にも合いやすくて、履き心地も良いものを買ってほしい。
その靴を履いて、ふたりでたくさんお出かけしてほしい。
そんな思いで生まれたのが、ifmeCALIN(イフミーカラン)です。



ifme
CALIN

かわいい、という品質

会社概要 (2020年9月30日現在)

会社名……………丸紅株式会社(英文: Marubeni Corporation)
創業……………1858年5月
設立……………1949年12月1日
資本金……………262,686百万円

株式事務に関するご案内

● 未払配当金のお支払い

みずほ信託銀行・みずほ銀行(みずほ証券では取次のみとなります。)

● 住所変更等の各種手続き

【証券会社に口座をお持ちの株主様】

口座を開設されている証券会社にお問い合わせください。

【証券会社に口座をお持ちでない株主様(特別口座に登録されている株主様)】

みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。

お問い合わせ先

〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-288-324

株主メモ

事業年度……………4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会……………毎年6月

期末配当金支払株主確定日…毎年3月31日

中間配当金支払株主確定日…毎年9月30日

株主名簿管理人および

特別口座管理機関……………みずほ信託銀行株式会社

〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号

同事務取扱場所……………みずほ信託銀行株式会社 本店 証券代行部

〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号

単元株式数……………100株

上場取引所……………東京・名古屋

公告方法……………電子公告

(当社の電子公告は、当社ウェブサイトの以下のアドレスに掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。)

<https://www.marubeni.com/jp/koukoku.html>

証券コード……………8002

ウェブサイト……………<https://www.marubeni.com/jp/>

株主レポート まるべに No.129 (年2回発行) 2020年11月30日発行 発行人/田島知淨

発行/丸紅株式会社 財務部 〒103-6060 東京都中央区日本橋二丁目7番1号 TEL 03-3282-2418



環境保全のため、環境に配慮した植物油インキで印刷しています。

将来見直しに関する注意事項:本紙に掲載された予測および将来の見直しに関する記述等は、本紙の発行日現在における入手可能な情報、一定の前提や予期に基づくものです。よって、実際の業績、結果、パフォーマンス等は、経済動向、市場価格の状況、為替の変動等、様々なリスクや不確定要素により大きく異なる結果となる可能性があります。当社は、本紙の情報利用により生じたいかなる損害に関し、一切責任を負うものではありません。また、当社は、本紙に掲載された予測および将来の見直しに関する記述等についてアップデートする義務を負うものではありません。